令 和 7 年 度　学 校 総 合 評 価

今年度の重点目標に対する総合評価

学習活動・教科指導

「予習復習・課題への取り組み」の達成率が昨年度の 78%から 85%へと向上した。担任面談や学習実態調査を継続し、生徒一人一人の学習意識の変化を捉えたアドバイスが定着している。授業満足度は92%と高く、互見授業やICT活用の研修を通じた組織的な授業改善が生徒の意欲向上に直結している。

学校生活

「社会的なルール・マナー」の実践度は 90.8%だった。目標には届かなかったが、制服の着こなし等について生徒自身によるルールづくりを推進し、自主性を尊重した指導を行った。教育相談体制では、スクールカウンセラーや巡回指導員を交えた包括的支援を年間 30 回実施し、心身の不調や不登校傾向にある生徒への早期対応に努めた。

進路支援

面接指導を 1・2 年次で 6 回、3 年次で 10 回以上と計画通り実施し、生徒の志向に応じた支援を行った。3 年 1 学期までの志望学部確定率は 77.9%（昨年度 77%）と微増したが、2 年 3 学期時点での確定率は低迷しており、早期の進路意識醸成が依然として重要課題である。

特別活動・図書

体育大会や砺高祭などの行事への主体的参加率は 98.0%、部活動満足度も 94.7%と、生徒主体の活動が活発である。図書館活用については、年間読書冊数が目標を下回るなど、読書離れへの対策が今後の課題である。

外部連携

地域との交流（延べ人数）は全校生徒に対し 108.6%を達成した。課題研究でのインタビューやボランティア活動を通じ、地域社会から学ぶ機会が大きく増加している。

次年度へ向けての課題と方策

（1）探究活動と教科指導をリンクさせた授業改善

課題：授業満足度は高い一方、主体的な学習行動（予習復習の習慣化）にはまだ個人差がある。

方策：1 年次の探究的な学びと 2 年次の課題研究をより深く連携させ、継続的な学びを実現する。互見授業を日常化し、教科の枠を越えた横断的な授業研究を進めることで生徒の思考力を高めまる。

（2）「理解・納得・行動」を柱とした生徒支援

課題：価値観の多様化により、画一的な指導では社会的ルールの定着が難しい場面が見られる。

方策：生徒会との対話を通じたルールづくりを深化させ、生徒自らが考えて行動する「自律」を促す。不登校傾向の生徒に対しては、教育相談・支援委員会の運用を見直し、校内での居場所づくりと組織的な対応を強化する。

（3）将来像を具体化させるキャリア教育の早期展開

課題：低学年次における進路目標の設定が遅れており、学習意欲との結びつきが弱い現状がある。

方策：1 年次から大学・社会人との懇談などに参加を促進し、生徒が将来像を具体化できる仕掛けを強化する。また、多様化する入試制度（総合型・学校推薦型等）に柔軟に対応できる組織体制を構築する。

（4）地域・中学校との連携と持続可能な活動の模索

課題：部員数減少に伴う部活動の維持や、読書量の低下が課題である。

方策：地域や中学校の動向を踏まえ、部活動の存続や社会体育への移行を含めた最適な実施形態を検討する。また、ビブリオバトルや中学校との連携を通じ、知的好奇心を刺激する情報発信に努める。

学校アクションプラン

令和７年度　砺波高校アクションプラン　　－１－		
重点項目	ア　学習活動　教科指導	
重点課題	授業を中心とした**学力の養成と自己学習の充実**	
現　　状	○授業に対する高い満足度が主体的な学習行動に必ずしもつながっていない点が懸念される。引き続き学習意欲を高める仕掛けづくりや声かけを粘り強く行いながら生徒が学習の意義・目標を核心に据え、学習習慣や態度の変化につながる試みを工夫していく必要がある。 ○授業力向上のため、互見授業を行って日々の授業改善に取り組むとともに、授業方法の研修会等に積極的に参加して、新しい指導法を吸収し授業に反映させている。 ○ＩＣＴ機器を活用したり、より主体的な学びの場を創出したりして、生徒の思考力・創造力を伸ばす効果的な方法を研究する必要がある。	
達成目標	①家庭学習習慣のアンケート調査 ａ）「予習復習や課題にしっかり取り組んでいる」と答える生徒 ｂ）「テストを見直し学習改善に活かそうとしている」と答える生徒	②教師の授業力向上 ａ）「授業に満足している」と答える生徒 ｂ）授業でＩＣＴ機器を効果的に活用する。または、協働力、発信力を高めるための学び合い活動を行う。
	ａ）１２月調査で８０％以上 ｂ）１２月調査で７０％以上	ａ）達成率８０％以上 ｂ）達成率９５％程度
方　　策	○協働力を高める取り組みを学習に取り入れ、思考力、発信力、創造力を高める生徒の集団づくりを進める。予習復習に主体的に取り組む習慣を定着させる。 ○学習実態調査、面接を継続し、生徒の生活実態や学習意識の変化を把握する。また指導と評価を一体化する中で、生徒に学習状況をきちんと確認させながら、学習方法や姿勢の改善、または発展的な取り組みにつながるアドバイスを与えていく。 ○課題発見力と問題解決力を養う探究活動を通じて思考力や表現力、判断力を育成する。 ○教科部会、互見授業、授業研修会などを通じて指導力を高めるよう努力する。	
達成度	ａ）８５％ ｂ）７９％	ａ）９２％ ｂ）９２％
具体的な取組状況	①a)教科担当者は学年担当者と生徒の学習状況を共有し、担任面談や教科面接を通して適宜相談や助言を行っている。 b)授業の中でテスト問題に触れ、解答解説を行ったり、見直しノートを作成するよう働きかけたりしながら、誤りから学ぶことを促している。 ②１年次で課題研究の基礎を学び、２年次で実践することにより、課題発見力と問題解決力の育成を図っており、とやま探究フォーラム等でその成果を発表している。教師の授業力向上は生徒の学力向上に直結する課題であるため、互見授業期間は他教科の積極的な見学や、ICT機器の有効活用等を教員に働きかけている。	
評価	A	A
学校関係者の意見	砺波地域の企業は人材確保で苦労している。地元には多くの魅力ある働き口があることを生徒や職員に知ってもらいたい。そのための方策として探究活動で地元企業などと連携を強めることは大いに意義がある。	
次年度に向けての課題	① 達成度は「予習復習・課題への取り組み」が85％（前年度78％）に上昇、授業満足度は92％（前年度91％）と高い。生徒の学習状況を教員間で共有することを指導に活かしてきている。今後も引き続き、生徒の実情に応じて、授業や課題に対する取り組み方を常に見直していきたいと考えている。 ② １年次での探究的な学びと２年次での課題研究をさらにリンクさせ、継続的な学びとなるよう、組み立てを工夫したい。また互見授業期間は設けてあるが、期間にとらわれず、気軽に授業を参観し、意見を交換し合うことが必要である。また教科の枠を越えた横断的な授業も今後考えていきたい。さらに中学校との連携も模索したい。	

（評価基準　Ａ：達成した　　Ｂ：ほぼ達成した　　Ｃ：達成できなかった）

<table>
<tr><td colspan="3">令和７年度　砺波高校アクションプラン　　－２－</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="2">イ　学校生活</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">学校生活における<u>基本的生活習慣の涵養と心身の健康保持</u></td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="2">① 規律ある生活として「挨拶の励行」「服装、頭髪や身だしなみ等の整備」「時間厳守」「公共でのマナー遵守」「携帯電話の適切な使用」を挙げているが、「社会的なルール・マナーを守る気持ちを持つ（意思表示）」即ち、ルール・マナーを必ず守り実践すると回答した生徒は８７．４％（令和６年度１２月）である。
② 各学年には、自己肯定感が低く日常的に心身の不調を訴える生徒や、学校不適応傾向を示す生徒が見られる。早期解決が難しい悩みが原因の場合も多く、長期的な支援が必要な場合もある。生徒の心身の状態の変化を早期に把握し、各学年との連携を図りながら、教職員全体で適切な対応と支援をする必要がある。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td>① 社会的なルール・マナーを知り、必ず守り実践する生徒</td><td>②教育相談・支援活動の充実と心身の不調を訴える生徒への対応方法の確立</td></tr>
<tr><td>９５％以上</td><td>カウンセリング等　年30回以上
生徒及び教職員対象の講演会等　年2回以上
メンタルヘルスに関わる情報提供　年3回以上</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="2">○「社会的なルール・マナー」についてのアンケートを実施して理解度を高める。
また、実践する生徒を増やす方策として、生徒が作り宣言したルールを守る形として生徒の自主性に任せる。
○学年部会や教育相談・支援委員会、職員会議を通し、心身の不調を訴える生徒や学校不適応傾向を示す生徒について全教職員で情報共有して共通理解を図り、早期からスクールカウンセラーや巡回指導員等の専門家を交えた包括的支援を行う。
○保健講話や保健だより・掲示板による情報発信により、生徒が自らメンタルヘルスについて学ぶ機会を設けることで、自己理解を深め、周囲の人との良好な関係を築くための一助とする。</td></tr>
<tr><td>達成度</td><td>９０．８％</td><td>カウンセリング等　年30回
生徒及び教職員対象の講演会等　年３回
メンタルヘルスに関わる情報提供　年７回</td></tr>
<tr><td>具体的な取組状況</td><td>○「社会的なルール・マナー」についてのアンケートを実施
○生徒による「ルールづくり」（制服の着こなし）について
○式や学年集会時の周知徹底</td><td>○カウンセリング等 SC18回巡回指導員12回
○講演会等　１学年生徒対象11/26
２学年生徒対象7/17、教職員対象5/29
○情報提供
保健だより「健康談話室・HEALTH」６回
HSCに関するポスター掲示
○教育相談・支援委員会等　10回</td></tr>
<tr><td>評価</td><td>B</td><td>A</td></tr>
<tr><td>学校関係者の意見</td><td colspan="2">○令和8年4月1日から自転車の違反に青切符が導入されるが、学校ではどのように指導しているのか。また、自転車のヘルメットの着用率が低いのではないか。
○カウンセリングのための登校は不登校生徒や保護者にとって敷居が高い。学校外で相談できる機関の増加をPTAとして県に要望している。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けての課題</td><td>○自主自律の精神の涵養
○生徒・保護者の価値観の多様化により、画一的な指導が困難になってきている。
生徒会との話し合いを通じて、これまで以上に「理解、納得、行動」を大切にして、粘り強く指導や援助を行う必要がある。</td><td>○不登校や教室に入ることができない生徒が増加している。これまでも学年中心に真摯な対応を行ってきたが、学校全体としての対策を考える必要がある。
○教育相談・支援委員会について、今年度を踏まえた運用等の見直しを行い、さらなる教育相談活動の充実を推進する。</td></tr>
</table>

（評価基準　Ａ：達成した　　Ｂ：ほぼ達成した　　Ｃ：達成できなかった）

<table>
<tr><td colspan="3">令和７年度　砺波高校アクションプラン　　－３－</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="2">ウ　進路支援　進路指導</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">進路目標の実現に向けて、進路意識の高揚と目標設定の早期化</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="2">○進路意識が希薄で自分の能力や適性を把握できず目標設定が遅れる生徒がいる。
○進路目標はあるものの、学習意欲にはつながらない生徒がいる。
○大学進学後、進路変更を考えるケースがある。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td>①　生徒１人あたり面接指導の年間実施回数</td><td>②３年１学期までに、進路目標を明確にした生徒の割合</td></tr>
<tr><td>１、２年生：　６回以上
３年生　　：１０回以上</td><td>８０％以上</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="2">○生徒が進路意識を深め、自己を見つめる機会となるよう面接の指導を工夫する。
○総合的な探究の時間などを利用し進路研究を行い、進路意識を高める。
○社会人や大学生による講話を充実させる。またオープンキャンパスやインターンシップなどへの参加を勧めることにより、進路目標の早期設定とミスマッチ防止につなげる。</td></tr>
<tr><td>達成度</td><td>面接回数
１・２年生：6回程度
３年生　　：10回以上</td><td>志望学部学科を決めた時期
○２年３学期まで　31.3%(昨年64%)
○３年１学期まで　77.9%(昨年77%)</td></tr>
<tr><td>具体的な取組状況</td><td>○３年生…模試実施後や志望校選択に向け時期を問わず10回以上実施。
○２年生…進級直後、各学期始め、科目選択時や試験後などに実施。
○１年生…入学直後、各学期始め、文理選択の時期や試験後などに実施。</td><td>○１、２年生は、総合的な探究の時間、進路講話、職業人や大学生との懇談などの取り組みを通して、大学や職業の意識付けを図った。
○３年生は、模試などを通して志望校を検討し将来の自己実現に向けた指導を行った。
○共通テスト後は、各々の実情に合わせて出願のアドバイスと受験への指導を行った。</td></tr>
<tr><td>評価</td><td>A</td><td>B</td></tr>
<tr><td>学校関係者の意見</td><td colspan="2">受験指導が中心となるが、志望校や志望学部が生徒の希望に沿ったものとなるよう、さまざまな機会を利用して生徒の職業観や将来像を具体化していただきたい。外部の活動などに積極的に参加している生徒も多いので、勉強以外の部分でも評価される受験の在り方にも目を向けて欲しい。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けての課題</td><td colspan="2">○低学年のうちから進路意識を高めることが、その後の学習に対する姿勢や望ましい生活習慣の確立等、充実した高校生活に繋がるので、大学等が実施するイベントなどに積極的に参加させるなど、生徒が具体的に将来像を持てるようにしていく。
○近年の多様な入試制度に柔軟に対応できる体制の確立も課題である。学習に加え、どのような経験を積ませるかという体制の確立が必要である。</td></tr>
</table>

（評価基準　Ａ：達成した　　Ｂ：ほぼ達成した　　Ｃ：達成できなかった）

<table>
<tr><td colspan="3">令和７年度　砺波高校アクションプラン　　－４－</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="2">エ　特別活動　<u>特別活動・図書委員会活動の活発化</u></td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">生徒の主体的な活動の充実・図書館利用の推進</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="2">○学校行事では生徒会が中心となって運営し、クラスや部活動単位で協力し合ってまじめに取り組む生徒が多い。本校生徒としての自覚や連帯感は高いが、やや消極的で主体性に欠ける生徒も見られる。
○ほとんどの生徒が部活動に所属して主体的に活動に取り組んでいるが、学習との両立に悩み、達成感を得られていない生徒もいる。また部員数の減少により充実した活動を維持することが難しい部がある。
○図書館の利用方法としては、自主学習の場としての利用がほとんどであり、探究的な学習に図書館資料を使うことが少ない。
○図書を借りる生徒は多岐にわたるが、貸出冊数はあまり多くない。日頃から読書をする習慣が身に付いていない生徒が少なからずおり、読書量が十分ではない。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td>①学校行事に主体的に参加、協力した生徒の割合
②部活動の充実度や結果に対する満足度</td><td>③年間読書冊数
※参考：図書館貸出冊数</td></tr>
<tr><td>全学年９０％以上</td><td>全校生徒　1,500冊以上
一人当たり３冊程度</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="2">○行事ごとにアンケートを実施してＴＧＰの身に付けたい力を生徒に意識させ、主体的、協力的な参加意識を高める。
○限られた時間の中で主体的かつ効率的な部活動運営を工夫する。アンケートによる情報収集をし、クラス減、教員数減の中、今後の部活動の在り方等について生徒ともに協議しているが、さらに協議を継続していく。
○企画研修部や各学年との連携を図り、生徒が在学中に継続して図書館を活用できるよう、段階的なアプローチを行う。＜１学年：初期指導の充実、２学年：課題研究での利活用、３学年：進路実現のための情報提供（小論指導等）＞
○蔵書種類の充実と展示方法の工夫により、生徒の主体的な学びの場となるような施設環境を整える。
○生徒図書委員会の主体的な活動として、教養講座や読書会の運営、アンケート調査などを位置づけ、各クラスの読書推進役となってクラスの読書意欲を喚起するよう働きかける。</td></tr>
<tr><td>達成度</td><td>①　学校行事に主体的に参加、協力した割合
98.0%
応援歌練習会98.5(99.0)%
体育大会98.6(97.6)%
砺高祭　　97.6(98.3)%
球技大会97.1(96.9)%
②部活動に対する満足度　94.7(88.5)%
1年：96.7(87.5)%　2年：94.3(79.3)%
3年：93.9(93.4)%　（　）内は昨年度</td><td>③生徒年間読書冊数 1,018 冊
4～7月1～3年生、8～1月1･2年生を対象としたアンケート結果による

参考：図書館貸出冊数　980冊</td></tr>
<tr><td>具体的な取組状況</td><td>4月　応援歌練習会事後アンケート実施
6月　体育大会事後アンケート実施
9月　砺高祭事後アンケート実施
10月　球技大会語アンケートを実施
1月　部活動アンケートを実施</td><td>読書への誘い、図書館だより、新刊案内毎月発行
4月図書館オリエンテーション(1年)
6月教養講座
8月校内読書感想文コンクール
9月砺高祭
7･12月読書会
1月ビブリオバトル(1･2年)
進路探究志望理由書対策講座（2年）
3月探究活動オリエンテーション(1年)</td></tr>
<tr><td>評価</td><td>A</td><td>B</td></tr>
<tr><td>学校関係者の意見</td><td colspan="2">○部活動は中学や地域では変化している。高校の実情に応じた体制を探ってほしい。
○探究活動で学んだことが社会とどのようにつながっているのかについて学んでほしい。図書館での交流活動は、自己実現をする場、世代を超えた交流の場となっている。今後も継続してほしい。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けての課題</td><td colspan="2">○生徒が主体的、協力的に企画運営や参加ができるような体制をより充実させていく。
○部活動については、地域、中学校の動向を踏まえ、学校の実情と合わせて、部の存続や実施形態等を継続的に検討する。
○読書離れが進んできていることを実感している。図書委員会の活動や読書感想文、ビブリオバトルへの取組を通して、生徒が主体的に図書を活用することができるよう、図書の価値や魅力、活用方法について発信していきたい。
○各学年や教科との連携を図り探究活動、小論文指導等へのサポート体制を充実させる。</td></tr>
</table>

（評価基準　A：達成した　　B：ほぼ達成した　　C：達成できなかった）

<table>
<tr><td colspan="3">令和７年度　砺波高校アクションプラン　　－５－</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="2">オ　その他　<u>保護者、地域、同窓会との連携</u></td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">保護者や地域、同窓会との連携・協力の推進および広報活動の充実</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="2">○保護者の学校行事への参加率は高い。
○授業や生徒会活動、部活動等、多様な活動を通して、地域の方との交流や学習する機会を設けている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td>①保護者が研修会等に参加する割合</td><td>②授業や特別活動で地域の方々と交流した生徒の延べ数が全校生徒に占める割合</td></tr>
<tr><td>８０％以上</td><td>８０％以上</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td colspan="2">○学校行事は早めに知らせ、できるだけ保護者が参加しやすいよう配慮する。
○授業や特別活動で生徒が地域調査に出かけたり施設訪問をしたり、地域の人に来校していただく機会を意図的に設ける。
○学校ホームページや同窓会ホームページを適時更新し、本校の教育活動の広報に　努める。</td></tr>
<tr><td>達成度</td><td>5月　ＰＴＡ総会（全学年）　64.8%
5月　ＰＴＡ懇談会(全学年)　77.2%
7月　3学年研修会　84.4%
10月　1，2学年研修会　71.7%</td><td>延べ517名　108.6%</td></tr>
<tr><td>具体的な取組状況</td><td colspan="2">○数値目標より下回ったが、ＰＴＡ総会ならびに研修会には多くの保護者が参加した。また。体育大会や合唱コンクール、砺高祭においても、保護者や地域の多くの方々が来場した。
○生徒は、課題研究で地域の方にインタビュー調査をしたり、体験学習の機会を設けたりして地域の方から学ぶ機会が増加した。また、特別活動では地域のボランティアやイベントに参加する生徒が増加している。</td></tr>
<tr><td>評価</td><td>B</td><td>A</td></tr>
<tr><td>学校関係者の意見</td><td colspan="2">保護者や地域の方は、砺波高校生の学習や特別活動に協力的である。また、砺波図書館で行われる砺波高校生によるイベントは大変人気があり参加者が多い。ぜひこのような学びや活動を続けていってほしい。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けての課題</td><td colspan="2">○ＰＴＡ行事に多くの保護者に参加していただけるように、広報に努める。
○授業や特別活動で、地域の方と交流する多様な活動の機会を積極的に設ける。
○砺波高校や礪波同窓会のホームページを適宜更新し、広く多くの方に閲覧していただけるよう努める。</td></tr>
</table>

（評価基準　Ａ：達成した　　Ｂ：ほぼ達成した　　Ｃ：達成できなかった）